戦後70年を前に

1都3県 痕跡を訪ねて 6

東京都八王子市

浅川地下壕

全長10キロ 未完の終戦

負の遺産保存 市民熱意

東京都八王子市内にある、その地下壕に足を踏み入れると、真夏というのに肌寒いほどだった。外気は30度以上あるのに内部は18度程度。照明はなく、中はまっ暗闇だ。「まるで別世界でしょう」。都立高校社会科教師、中田均さん(59)が静かに話し始めた。年間300万人が訪れる高尾山の北東約2キロの丘陵地。その地下に碁盤の目のような全長約10キロの「浅川地下壕」はある。

弾薬などの地下倉庫として1944年9月に建設が始まった。朝鮮人労働者らが動員され、2000～3000人が現場近くに宿泊。昼夜3交代で「イ」「ロ」「ハ」の3地区に分けて建設が進み、完成した地下壕の一部に、東京都武蔵野市にあった中島飛行機(現・富士重工)のエンジン工場が移転した。

だが、程なく終戦を迎え、計画の約75%を掘り終えた段階で建設はストップした。後の米軍の調査によると、生産された航空機のエンジンは10台に満たなかったという。

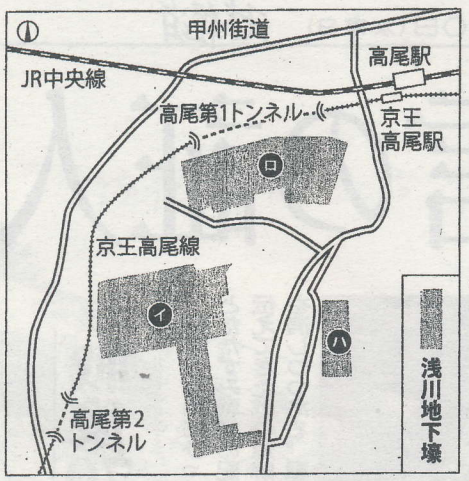
戦後、浅川地下壕は土地を所有する企業がマッシュルーム栽培に利用する程度で、歴史に埋もれていった。やがて平成に入り、高尾の豊かな自然に目をつけて宅地開発や学校建設が計画されると、工事の際に陥没事故などが発生。地下壕の存在が認識され始めた。

中田さんが地下壕を知ったのも、その時期だった。93年に「近くに大きな地下壕がある」と聞き、当時勤めていた都立館高校(現・都立翔陽高校)のフィールドワーククラブの生徒と一緒に地下壕の中に入った。「調べてみて、その大きさに驚いた」と言う。以降も地下壕の歴史を調べ続け、97年に郷土史に関心を持つ人など約150人で「浅川地下壕の保存をすすめる会」を結成した。

同会は現在、月に1回のペースで見学会を開いている。「私も戦後生まれで戦争を知らない。しかし、この壕を掘った戦争という負のエネルギーの記憶を、壕を見ることで次の世代にも感じてほしい」と中田さんは話す。同時に八王子市や国などに地下壕保存を訴えているが、約2万平方㍍の壕を保存するには億単位の資金が必要とされ、行政は保存に及び腰という。【黒川将光】

＝つづく

見学者に地下壕の歴史を説明する中田均さん(右)。小仏層群と呼ばれる砂岩と粘板岩の層をダイナマイトを使って掘り進められた



浅川地下壕

私有地にあり、勝手に立ち入ることはできない。「浅川地下壕の保存をすすめる会」が主催する見学会で、イ地区の内部のみ見ることができる。問い合わせは中田さん(sptf2z99@ion.ocn.ne.jp)。

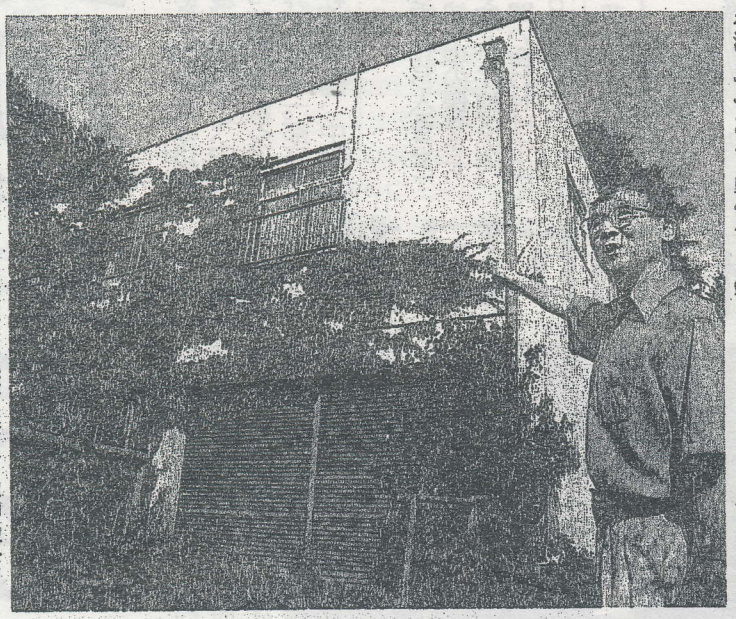
産経新聞　2014年（平成26年）7月30日（水曜日）　日本経済

守れ無言の証人

消えゆく戦争遺跡

戦後70年を前に

国や自治体 動き鈍く

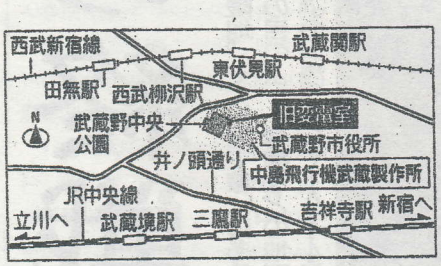


中島飛行機武蔵製作所の旧変電室の保存を訴える秋山昌文さん（東京都武蔵野市）

都市のなかにひっそりとたたずみ戦禍の記憶を伝えてきた戦争遺跡が姿を消しつつある。戦争体験者が減り、「無言の証人」の存在感は増しているが、国や自治体の動きは鈍い。

東京都武蔵野市の都営住宅の一角にある古ぼけたクリーム色の四角い建物。旧日本軍の主力戦闘機、零戦などのエンジンを製造した「中島飛行機武蔵製作所」で唯一現存する旧変電室だ。

戦闘機エンジンの約3割を生産し、国内の最重要工場とされた同製作所は、1944年11月から始まった東京への本格的な空襲の最初の攻撃目標となった。計9回の空襲で工員や動員されていた学生ら200人以上が死亡。その後、空襲は市街地への無差別爆撃へと拡大した。



都は解体決定

95年の文化財保護法改正で、明治期から第2次世界大戦終結までの戦跡の文化財指定が可能となった。市民らでつくる「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」は約2千人の署名を集めて旧変電室の指定を求めてきたが、都や武蔵野市は「改修されており保存価値がない」と判断。今年3月、隣接する公園の拡張に伴い解体を決めた。

戦中から近くに住み、空襲も経験した同会事務局長の秋山昌文さん（78）は「当時の建物が一つも無くなれば、戦後世代が戦争の怖さを想像できなくなる」と話す。

戦跡の保存を巡っては、文化庁が2003年度から、全国の戦跡50カ所を対象に本格的な調査を開始。自治体による戦跡保存のガイドラインになると期待されたが、「識者によって歴史評価が異なる」（記念物課）などとして報告書の完成はめどが立っていない。

JR高尾駅（東京都八王子市）近くの金比羅山などの地下には、国内最大級の地下壕（ごう）「浅川地下壕」が広がる。総延長約10キロ。戦争末期に陸軍が掘削し、空襲で壊滅した中島飛行機武蔵製作所の移転先にもなった。昨年2月、一部の土地が所有者から開発業者に売却された。

見えぬ保存基準

八王子市は今年3月、開発業者から用地を約5億円で購入、宅地開発による地下壕の破壊は免れたが、目的はあくまでも緑地保全。「浅川地下壕の保存をすすめる会」の中田均さん（59）は「多くの市民が見学できるようにすれば、戦争を身近な問題として考えるきっかけになる」と同市に文化財指定を求める。

戦争遺跡保存全国ネットワーク（長野市）の調査では、国や自治体が文化財として指定・登録する戦跡は211件（今年6月時点）あるが、本土決戦に備え政府機関の移転先として建設された「松代大本営」（同市）などは対象外だ。

十菱駿武・山梨学院大客員教授（考古学）は「国は保存基準を、早く自治体に示すべきだ。このままでは戦跡がどんどん失われかねない」と警告する。

読売・朝版 2015.7/30

「武蔵製作所」姿消す

旧中島飛行機 変電室 解体開始で

太平洋戦争中に零戦などのエンジンを製造し、米軍の空襲を受けた旧中島飛行機武蔵製作所（武蔵野市緑町）の変電室で29日、都立武蔵野中央公園の拡張に伴う建物の解体工事が始まった。変電室は現存する製作所唯一の建物だったこともあって、地元の住民からは惜しむ声が聞かれた。

解体工事が始まった旧中島飛行機武蔵製作所の変電室（29日、武蔵野市で）

戦後70年

公園拡張伴い／地元、惜しむ声

爆弾が貫通したとみられる穴の跡（下、部分）について説明する牛田さん（29日、武蔵野市で）

製作所は1944年11月以降、9回の空襲を受け、周辺住民も含めて200人以上が死亡。付近は壊滅状態となったが、製作所のほぼ中央に位置する変電室は空襲を免れたとされていた。

ところが、工事に先立ち行われた一般公開で、保存を求めていた市民団体「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」が室内を調べたところ、2階の天井に爆弾が貫通したとみられる穴の跡があった。穴の跡は直径約38㌢で、周囲のヒビとともにコンクリートで埋められていた。

記録する会副代表で、法政大学中学高等学校社会科教諭の牛田守彦さん（53）によると、建物にほかに目立った損傷がなく、不発弾だった可能性が高いという。工事前は天井ボードが張られていて、穴の跡は知られていなかった。

変電室は鉄筋コンクリート2階で縦9㍍、横18㍍の横長の建物。製作所開設の38年当初から設置されていた。戦後、製作所の敷地は都営住宅や武蔵野中央公園などになった。変電室も53年に改修され、都営住宅の管理事務所として使われていた。

都は2013年3月に同公園を約1・1㌶拡張する計画を決定。記録する会は13年末、保存を求める約2000人分の署名を集めるなどしてきたが、14年2月の都公園審議会答申で解体が盛り込まれ、都は解体を決めた。

都住宅整備課によると、建物解体に向けた内装の取り壊しは7月上旬に始まった。記録する会は、内装をはがした後に内部を公開するよう求めていた。解体工事は9月上旬まで行われる。

牛田さんは「戦後70年の節目に、空襲の跡が残る建物が解体されてしまうのはとても残念」と話している。

浅川金比羅山（こんぴらさん）の自然と遺跡は残った

浅川地下壕の保存をすすめる会　中田 均

八王子市にある浅川金比羅山問題の経過と今回の「高尾・浅川の自然を守る会」と「浅川地下壕の保存をすすめる会」が取り組んできた、2013年から14年にかけての活動を報告いたします。

■重要な自然環境と遺跡

高尾駅西側にある金比羅山は、高尾山の前山として、また関東山地の始まりの山として自然環境上も重要な位置にあります。金比羅山には戦国時代の遺跡や、中腹には第二次世界大戦末期の中島飛行機地下工場跡（浅川地下壕）の戦争遺跡もあります。91年、八王子市議会は、浅川地下壕を戦争遺跡として認める請願を採択しました。

80年代から90年代にかけて、学校法人矢野学園（八王子実践）が校舎造成のために山を削ろうとした時、地元住民をはじめ多くの市民の努力で計画を撤回させました（93年）。

その後、金比羅山の公有化の請願が市議会で採択（94年）され、06年には、金比羅山が市の「斜面緑地保全区域」に指定されました。09年には山域の3分の1を所有する野口氏の所有地が八王子市に寄贈され、10年には矢野学園の所有地が市の買収確保地に決まり順調に進行してきました。

■開発業者が神社立ち退き要求

ところが、13年2月、矢野学園は大阪の開発業者である三和土木に所有地を売ってしまいました。さらに開発業者は、浅川金刀比羅（こんぴら）講と講の代表に対して、山頂にある浅川金刀比羅神社と参道の撤去、さらに立ち退くまでの土地使用料の支払いを求めて東京地方裁判所立川支部に裁判を起こしてきました。

この神社立ち退き要求に対して、浅川金刀比羅講としては、神社の移転はまったく考えておらず業者の要求の一切を拒否しました。

■開発中止の要請署名や集会

そして業者の無法な行為を止めさせるため、裁判所に対して公正判決を求める要請署名を始めました。短期間でしたが、①チラシ2万枚を配り、「金比羅山の自然と遺跡を残そう」の集会（74名の参加2014.1.24）を開催し、②金比羅山の買収を八王子市に要請し、③弁論準備3回（9月～1月）では、毎回30人を超える傍聴を行い、三和土木の動きを監視してきました。④裁判所に4000筆を超える公正判決を求める要請署名を届けてきました。

■市有化実現で決着

その結果、新聞報道（2014.2.26）の通り金比羅山は市有化され、山の自然と戦国時代の遺跡や地下壕は保全され、金刀比羅神社は山頂に残ることができました。

決着のついた4月のはじめ「金比羅山にある戦争遺跡の地下壕は守られました」と支援していただいた方へ報告しました。すぐにお祝いメールが届きました。

○すごい活動です。市民の力が最終的に行政を動かしたと思います。この成果が今後の市民活動（自然、歴史や文化財等）の財産になったと思います。これをバネに2団体の連携がつよまったでしょうから、今後の活動に期待しております。

○金比羅山の自然と遺跡の保存運動の成果、おめでとうございます。署名しか出来ず、ハラハラしていましたが、本当にうれしい限りです。

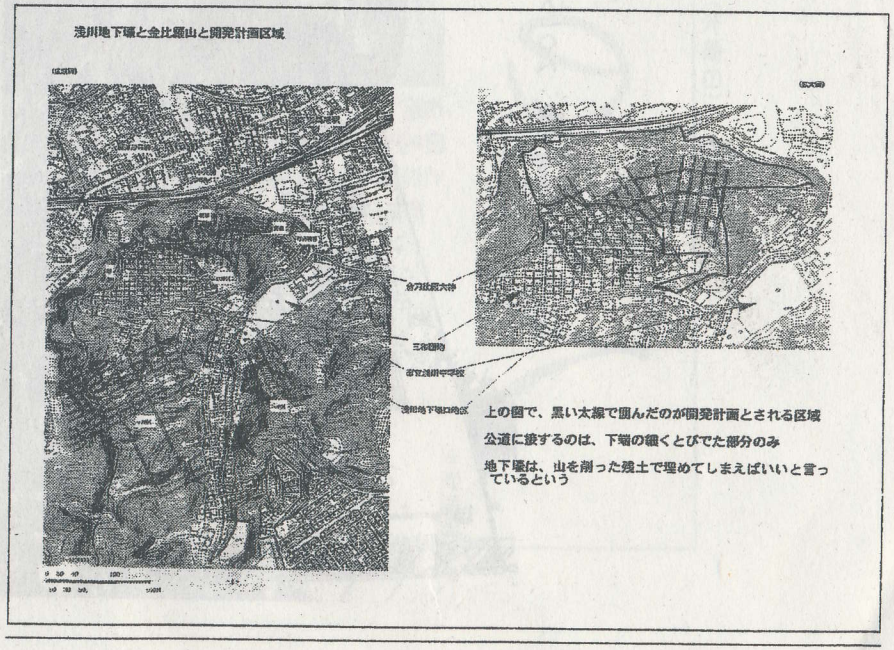
■「ロ地区」地下壕の坑内調査に取り組みたい

いま、見学できる「イ地区」（高乗寺側）の地下壕が本土決戦のために掘られ、実際には地下工場として使われたのに対して、金比羅山に眠る「ロ地区」地下壕は、敗戦間際まで掘削されていた跡（トロッコの枕木跡やかすがい）が多く残っています（写真右）。

これからの課題として、八王子市の協力のもと「ロ地区」地下壕の坑内調査についても取り組みたいと考えます。

今回の経過については、本会のホームページ「Peaca あさかわ」No.97、No.98、No.99の記事をご参照下さい。

【注・会ホームページから】
金刀比羅神社＝金刀比羅大権現を祀る神社。
金刀比羅講＝金刀比羅神社を支える人々の集まり。
金比羅山＝「こんぴらやま」「こんぴらさん」とどちらに読んでもかまわないらしい。金刀比羅神社が建つこの山を地元に人びとはこう呼んでいる。文字に書くときは「刀」を書かない。



浅川地下壕の保存をすすめる入会のご案内

私たち浅川地下壕の保存をすすめる会は 1997 年秋に発足以来、全国の戦争遺跡保存運動のさまざまな団体と連携しながら地道な活動を続けてきました。一人でも多くの仲間と力を合わせて運動を発展させていきたいと考えて入会のご案内をいたします 。下記の規約をお読みいただき、ご賛同いただけましたら是非ご入会下さい。

《 事 務 局 》
〒１９３－０８２６
東京都八王子市元八王子町３丁目３００６
齊藤 勉 方
電話・ＦＡＸ ０４２（６６４）８６１５

浅川地下壕の保存をすすめる会 規約（抜粋）

３〈目 的〉
この会は、「浅川地下壕」の調査・保存・公開と平和資料館を、八王子市並びに東京都に対して求め、あわせて、「浅川地下壕」から戦争の患かしさ，恐ろしさを学び、もって平和の実現に寄与することを目的とする。

１１〈会 費〉
この会の会費は年会費を負担する。
会費は個人会費２０００円（学生会員は５００円)、団体会費３０００円とする。

１２〈活 動〉
この会は、以下の活動を行う。
（１）浅川地下壕など八王子の戦争遺跡の調査・研究
（２）浅川地下壕など八王子の戦争遺跡の見学会・学習会等の開催
（３）浅川地下壕など八王子の戦争遺跡の文化財指定について八王子市・東京都の関係機関に対する要請
（４）浅川地下壕の公有地化と周辺を含めた地域の浅川史跡自然公園構想(展示学習施設としての平和資料館設立を含む）の具体化
（５）会報・学習用教材・研究誌などの編集・発行
（６）その他、この会の目的を実現するための活動

入 会 申 込 書

私は浅川地下壕の保存をすすめる会の目的に賛同し、活動内容を理解した上で
２０＿＿年度の会費＿＿＿＿＿円を添えて入会を申し込みます。

２０ 年 月 日

お名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

郵便番号 －
ご住所 都・県 市・町・村 番地

電話番号